

二 挨拶

-----設立七年目を迎えて-----

代表理事 内田 芳動

日頃の会員の皆様のご支援、ご協力に厚く御礼を申し上げます。当会は平成13年12月約30名の有志が集まって発足しました。丁度定年を迎える地域で何かと思っていたので、当NPO法人の立上げに参画しました。経余曲折もありましたが、近隣の行政、企業、各種団体のご支援も頂きお蔭様で設立7年目を迎えました。設立時は文字通りゼロからのスタート、会員のみなさんの善意だけが頼り、いわば素手同然で力を合わせてやってきました。無我夢中でしたが省みてこれでよかったのだと思います。最初から守るべき資本や権威があったら、法人組織の運営で管理、統制などが色濃くなっていたでしょう。事務所では声を上げて争うこともなく、年中、春風が吹いているようで笑顔が絶えません。折々の交流会も含めて「群れて楽しむ」溜まり場となりました。加えて会員のみなさん一人一人が生き甲斐を追及し、シニアの経験やノウハウを活かしながら、町作り、地域振興で社会形成に参画できるのは何と喜ばしいことでしょうか。みなさんにとつてのCNETは何でしょうか。本誌第8号ではその思いを出来るだけ多くの方に語って貰えるよう編集者にお願いしました。今から紙面が楽しみです。これからもお互い心身を健やかにして継続して行けるよう念じつつ発行に当つてのご挨拶と致します。

パソコン水彩画の紹介

千葉 淳

パソコンの受講目的には、時代に取り残される、文書作成が必要、年賀状作成、ボケ防止等多様である。パソコンは、常に使ってないと操作方法を忘れる事が多い。パソコンを使うことだけが生活の全てではないが、趣味に活用して脳を活性化する事も一つの方法と思う。趣味の一つとして、パソコン水彩画をお勧めしたい。パソコン水彩画の利点は、筆や絵の具などが不要でパソコンに向かえばすぐ始められるし、画像は保存して使い回しや手直しが出来る。また、何枚でも印刷できる。パソコン水彩画 WG を作って絵手紙を一人暮らしの高齢者宅等に季節の便りとして届けたいと思っている。



パソコン講習活動に参加して 宮垣 久典

退職後当会に入会し、幸い以前から関心を持っていたパソコン講習活動に関わることになってから今年で7年になります。思い切ってこの活動に参加したお陰で、会員や地域の人々との、これまで経験したことのない、地位やしがらみに囚われない交流の機会が得られ、今まで楽しく充実した日々を送ることが出来ました。今後は、皆さんのお知恵とお力を拝借して、気軽に参加できるプチ講演会や共通の課題を持ち寄って勉強するプチ講習会等の新しい企画も取り入れ、より充実した活動にして行きたいと考えています。

事務局として 6 年

高橋 正

事務局担当になった6年前は会員も少なく、赤字で大変な状態でした。第1回総会で代表理事に選任された内田さんは新事業や種々の改革等で収入及び会員も増加し、毎年黒字決算継続中です。当会の感想は(1)多くの方と楽しく交流ができた。(2)パソコン教室、学校支援、パソコン講師等で生きがいのある仕事ができた。(3)優秀な会員が多く種々の問題が解決できた。これは内田代表が掲げた「集雅凝情、敬業樂群」そのものだと思います。6月に事務局員が稻毛ますみさんから小杉悦子さんにかわりました。稻毛さん、長い間有難うございました。

会の活性化

佐藤 昭治

この会での活動も、はや6年目に入りました。振り返ってみるとこの間色々な難局を経験しました。ここ2年くらいは会の活動も安定し、何となく過してきた感じが有ります。このままでは沈滞するので、ここで新たに自分自身の活動項目を設定し、会の活性化に尽力したいと考えておりますので、皆さんのご協力宜しくお願ひ致します。

主な活動項目を下記とします。1. 会員のコミュニケーション向上。2. 事務所のレイアウト変更と部品整理。3. サーバーの立ち上げ。4. 新規事業の開拓。5. パソコン講座のテキスト作成。

見せられる背中

宇権 秀夫

子供たちが教室で夢中で勉強している姿、あるいは運動場で無邪気に遊んでいる姿を見て、この子供たちと同じ頃の自分はどうだったか思い出してみることがある。自分の恩師である先生はどうだったか、割と細かに子供ながら観察していたように思う。子供たちは見ていないようでも大人を見ているのである。温かく見守る顔、やさしい顔、真剣な顔、品位のある仕草など等、自分ができるパフォーマンスがあると思う。子供たちの眼に、この「見せられる背中」はどんな風に映っているでしょうか。

町づくりについて

大島 興洋

平成19年度より「町つくり」と「経理」を担当しています。当会の収入の大部分は年会費とパソコンを中心とした事業から成り立っています。現代表理事の尽力で町作りとして会員の活動の場を広げたいと商店会の行事への参加、学生が運営する店「カウッパ」の管理人、交通量調査などをやってきました。しかし期待した「さくらシティ日立」のステージの管理は残念ながら中止となりましたが、町おこしや高齢化社会に伴う仕事などこれかもパソコン関係以外で会員の皆さんのが活動できる場を作っていくみたいと思っております。

俳句の会、10月で42回

桜井 喬子

平成17年5月に第1回俳句会を開いてから、毎月1回の句会を重ね、10月で42回となりました。多忙なお仕事の傍ら「継続は力なり」で上達しています。

今まで気付かなかった、美しい日本語、植物、自然などに感動し、脳の活性化に役立っております。車椅子生活で来所出来ない方もメールで句会に参加し、俳句を楽しみ生き甲斐となっていらっしゃる方もおります。ご希望の方はいつでもどうぞ。

ハーモニカラライフを楽しむ

三字 伍

数年前、高橋早都子(世界チャンピオン)の演奏を聴きその美しい音色に魅せられてハーモニカを始めました。それ以来数人の仲間と月2回練習をし、その合間にいろいろな事を語り合い楽しんでいます。時々老人ホームなどを訪問して懐かしい曲を演奏し、一緒に歌うことで大変喜ばれています。ハーモニカは複式呼吸で吹くことが要求され健康にも良いと言われています。これからも仲間とハーモニカライフを楽しみたいと思っています。

続けることが“元気の証

星川 雄

会社生活を離れて約4年、当会に参加させて頂いて3年と少しが過ぎました。自由人となって好きな“パソコンやデジカメいじり”など趣味のデジタルライフの充実と、当会活動によって“地域社会のお役に立ちたい”というのが私の第二の人生目標です。理事として会の運営に参画させて頂く事で、会員の皆様のお役にたてれば、これも地域社会への貢献に繋がると思っています。個人的な趣味も当会での活動も、好きでやっていることで、長く続けられることが“元気の証”だと思っています。

教えてあげられる喜び

久保 裕

本会の「設立趣旨」を改めて読み直してみました。現代のマニアックに発展し続けているパソコンを高齢者やご婦人が、「パソコンを始めたいんだけど」とおそるおそる事務所に足を運んで来られたり、電話をかけて来られます。初心者のお話をよく聞いてあげることが大事です。指導する立場の会員は「教えてやる」ではなく「教えてあげられる喜び」を忘れないでください。これは代表の言う「報酬は相手の笑顔」にも通じることだと思います。



デジタル写真同好会

小林 明光

今年の活動状況は、1～4月はレタッチ技術の向上等充電期間として活用して、5月から撮影に出かけました。5月は1泊して残雪の飯豊山の麓、山形県小国町に行き、白い山、雪解け水の奔流、ブナ林、新緑、そして運よく出会った山焼きの日の撮影を楽しみました。7月はニッコウキスゲで黄色いじゅうたんを敷いたような福島県雄国沼、9月は栃木県那須町の簗沢の彼岸花の撮影を楽しみました。加えて、8月の交流会での、作品の人気投票も印象深いものでした。

夏の交流会に参加して

村山 俊子

“先生の笑顔に会える木曜日”のパソコン講座午前の部でお世話になっています。今年の夏の交流会に微力ながらお手伝いする機会に恵まれ、参加させて頂きました。内田代表をはじめ普段お目にかかることの出来ない先生方とチームワーク良く開始時間までに準備完了、皆様方を笑顔でお迎えする事が出来ました。お手伝いできた事を感謝致します。